

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台文学館	
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団	
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和3年度 53,912人（前年度比144%） 令和2年度 37,334人 令和元年度 50,438人	
	《事業》 ・施設の管理運営 ・特別展等の企画及び開催 ・文学資料の収集、保管	
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 191,668千円 (201,046千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (32,956千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 9,130千円 (3,457千円) ・ その他収入 1,408千円 (1,543千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ ご意見箱を設置して、常時意見をいただいている。 ・ 特別展や企画展ごとのアンケートを実施。 ・ 施設利用者アンケートの実施	

( )は前年度決算額

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的や基本方針について、職員間で共通理解がなされており、利用者へ対しても適切に周知している。展示だけではなく、文学関係者・団体との共催事業や文学について深く学べる講座を多彩な内容で実施しており、文学館の設置目的に合った取り組みを積極的に行っている。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の業務実績や配置、仕様書や事業計画に即した業務の実施状況等は適切である。また、経理について、帳簿の整理・保管や市への報告等、適切になされており、個人情報等の情報管理についても、市の規定に準じて取り組んでいる。災害発生時の対応について、防災マニュアルに基づく訓練を適切に行うとともに、災害時の情報連絡体制・役割分担も明示されている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	屋内の管理については、法定点検のほか、職員による自主点検を実施のうえ、老朽化等による不具合等について早期に発見し、速やかに市へ報告がなされている。また、来館者の利用に不便が生じないよう、応急措置等についても速やかに実施しており、安全面や快適な利用環境の維持に対する意識が高い。屋外の管理については、近年大型の台風や豪雨が相次いでいるため、台原森林公園に隣接し、樹木に囲まれた環境であることから、倒木の点検を行い、速やかに市への報告を行うとともに、優先度を決めて伐採を行い、適切な管理がなされている。	24/24
IV サービスの質の向上	定例ミーティングや研修、OJT等により接遇や必要な情報をしっかり身に付けており、来館者対し、親切丁寧な対応がなれている。情報発信についても、ホームページのほか、フェイスブック、ツイッター等SNSを効果的に活用することにより、幅広い世代へ情報が行きわたるよう取り組んでいる。	28/28

<p>V 施設固有の基準</p>	<p>質の高い展示を行っている点について、幅広い内容の展示を行っており、市民の文学への関心を高めることに寄与した波及効果を評価したい。有識者による運営協議会では、「ぼのぼのたちの杜」は作者へのメッセージ企画を「とても良いアイディア」として評価され、「高山樗牛と土井晩翠『瞑想の松』物語」は「貴重で仙台だからこそこの企画である」との評価をされている。</p> <p>若年層に向けた企画の充実や来館者が参加できる取り組みを行うなど、来館者数の増加のための工夫を行っていること、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めながら展示等を実施したこと、SNSを効果的に使用した広報等について、幅広い世代の来館者増に繋がる取り組みであると評価したい。</p>	<p>50/48</p>
------------------	---	--------------

### 三 評価総括

《指定管理者（（公財）仙台市市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設の管理運営は、施設所管課と定期的な打ち合わせのほか、電話、メールなどで情報交換を行い、関係法令並びに協定書等に基づき適切に運営を行った。内部では毎朝の事務連絡、毎週水曜日に各委託業者の事務連絡及びその直後に職員全員で情報交換を行って連携して業務にあたることで、スムーズな市民サービスの提供を行った。施設管理料確定額は、191,668千円と昨年度を9,378千円ほど下回っている。主な理由としては、効率的に業務を遂行することにより、人件費を抑制することができたこと、各職員が日々節電に努めることによって、光熱水料費の増大を抑えることができたこと、などが考えられる。入館者は53,912人、観覧者数は29,234人となり、コロナ禍前の水準に戻りつつある。春は写真展、秋は漫画展、冬は当館資料を中心の企画展と、硬軟のバランスが取れた展示を開催した。前年度中止とした夏休みの妖怪展には多くの親子連れが来館し、20回の節目となった年賀状展は、これまでの歩みをパネルで紹介した。</p> <p>オンライン事業では、当館および仙台ゆかりの文学者について紹介する動画「仙台文学館・ことばの杜をあるこう」と、開催中止が続く「荒城の月」市民大合唱の動画を作成し、YouTube配信を行った。募集形式にした「ことばの祭典」には全国から500作品が寄せられ、また「荒城の月」発表120年などを記念して募集した「月にまつわるエッセイ」には200を超える作品が集まり当館のアピールにつながった。イベント参加者は8,944人で、館長講座やゼミナールは、感染症対策を講じながら、臨時休館にかかった講座は日程変更するなどし、学びの場の保持に努めた。文学資料は購入709点、寄贈838点を受け入れ、着実に蓄積している。次年度もコロナ禍の状況下、臨機応変に対応しながら、事業を展開していきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設運営については、開館や施設貸出、帳簿等の整備保管、保守点検や設備修繕・清掃等を含む施設の維持管理、個人情報保護や情報セキュリティ・情報公開への対応、事故や災害時等の危機管理体制の構築、その他必要な書類の整備、諸手続き等、関係法令や協定書に基づき、いずれも適正に実施されている。定例ミーティングや研修等を通して、業務の手順や必要な情報について職員間で共有されており、組織的な運営管理体制が構築されている。</p> <p>令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館となった期間（令和3年3月26日～5月11日）があったが、開館中は感染拡大防止対策を講じ、安全な施設運営に努めていた。特別展や企画展においては、若い世代の集客が期待できる人気漫画『ぼのぼの』を取り上げる一方、バスの行き先にも使用されている「瞑想の松」をタイトルに入れながら、仙台ゆかりの文学者である高山樗牛と土井晩翠をこれまでとは違った切り口で取り上げるなど、硬軟織り交ぜた幅広い展示内容となっている点を評価したい。また、SNSの活用を図ったことは幅広い世代に訴求するツールとして有効であり、今後も積極的に活用し、情報発信に努めていただきたい。</p> <p>講座等についても、職員と市内外の文学関係者とのネットワークやこれまで構築してきた信頼関係のもと、様々な講師を招いて、幅広い視点から文学を学べる講座を実施し、市民の教養の向上に寄与する取り組みであったと言える。</p> <p>今後も安全安心な施設運営に努めるとともに、同館の魅力を広く発信し、市民の文学への興味関心を醸成する展示や講座の企画に努めていただきたい。</p>	<p>S</p>

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：文化観光局文化スポーツ部文化振興課